

令和4年度（2022年度）交付

協働提案事業補助金 成果報告書

- 本報告書は各団体から提出された事業報告書や自己評価シートなどの資料をもとに作成しています。

令和4年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	瀬戸内市立図書館友の会 せとうち・もみわフレンズ
事業名	市内歴史関連の史跡を中心とした デジタルアーカイブの蓄積と情報活用
テーマ	デジタルアーカイブを核とした地域資源の情報 発信
協働部署	瀬戸内市民図書館
補助金額	999,800円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	図書館の活動に協力・提言することにより、図書館活動を支援するとともに、交流と実践の場を提供する。		
活動・業務	図書館活動に関する支援（イベントの共催、庭園のグリーンキーパーなど）、図書館を会場にした行事の開催。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	78人

事業内容

「せとうちデジタルフォトマップ」の写真投稿や活用を推進し瀬戸内市の魅力を発信する事業。フォトマップ活用法や歴史に関する講演会、史跡見学、ワークショップや街歩きなどを行い利用拡大に取り組んだ。またドローンでの撮影も実施し、フォトマップへの記録蓄積やフォトマップの写真を活用した紙のクリアファイル、かるたや写真集の作成も行った。

事業の成果

- 今年度「せとうちデジタルフォトマップ」への写真投稿が222点あり、例年の10倍以上の投稿となった。
- 街歩きや講演会を合計10回行い、延べ179人の参加があった。
- 「せとうちデジタルフォトマップ」の写真を利用し、紙のクリアファイル15種類1500枚作り、市民図書館入館者100万人記念として配布した。また、「せとうち歴史クイズかるた」(220セット)や、フォトマップの写真を用いた写真集「わたしたちのふる里～瀬戸内市～」(100部)を作成し、市内の学校や県内の図書館に贈呈した。

事業を振り返って良かったこと

- 瀬戸内市には歴史もあり、風景が美しい場所がたくさんあることが分かった。
- 写真蓄積の為に街歩きをすることにより、まちの歴史や文化に触れることができ、瀬戸内市を愛している多くの人たちに出会うことが出来た。
- 写真を使ったクリアファイルやかるた、写真集を作成したことにより、「せとうちデジタルフォトマップ」の存在をアピールすることができ、改めて瀬戸内市の良さを再認識する機会となった。

改善点や今後取り組みたいこと

- 写真投稿数を増やすことはできたが、市民が気軽に投稿するまでには至っていない。市民が自主的に投稿できるように障害を取り除いていきたい。
- 市民が気軽に投稿できる仕掛けをして、多くの市民の写真が載った写真集を作りたい。

令和4年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	一般社団法人 瀬戸内市観光協会
事業名	ドローンを活用した防災意識の啓発と防災対策
テーマ	災害に強いまちづくり
協働部署	危機管理課
補助金額	578,100円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	瀬戸内市の観光事業を推進するとともに、地域産業の発展及び地域住民の文化、教育、福祉、生活の安定・安全の向上に寄与すること。		
活動・業務	瀬戸内市観光センターきらり館、牛窓海遊文化館の指定管理業務、観光地の紹介・宣伝活動等。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	11人

事業内容

“災害に強いまちづくり”のテーマのもと、防災に対する関心が薄いと思われる若年層に向け、テクノロジー（ドローン等）の操縦体験等を切り口として、防災意識向上を目的としたイベントの開催や、災害時に役立つ防災学習を実施する事業。防災減災セミナーやドローン体験教室、ドローンによる物資運搬実験などを行った。

事業の成果

- こどもひろばで実施した小型ドローン体験教室では、80名を超える子ども達の参加があり、まずは楽しんでドローンの社会活用を考える機会とした。
- 防災減災セミナー＆体験教室（2回）では防災意識向上につなげるため、ドローン等の機器が災害現場でどのように活用されているかを学ぶセミナー形式で開催。こどもの参加を想定していたが、ほとんどが家族参加となったことで、家族単位で防災減災を考えるきっかけとなった。
- 物流ドローン実験は、有事を想定した緊急物資輸送のための備えとして、飛行ルートの確立を行うとともに、地域社会に対する「ドローンを活用した防災意識の啓発」を目的として実施した。

事業を振り返って良かったこと

- 小型ドローン体験教室を、こどもひろば（広く安全な場所での子どもが集まるイベント）とコラボして開催することで、想定を超える参加者数につながった。
- 防災セミナーでのフライトシミュレーター操縦体験は、防災視点においても親和性があり、狙い通りの反応が返ってきた。
- 物流ドローン実験では地域住民から実験の内容について問い合わせがあったり、区長自らが近隣へ向けた放送協力を申し出てくるなど、実証事業への注目を高めることにつながった。

改善点や今後取り組みたいこと

- 多くの参加者が見込める事業では、以降の継続性を担保した仕組み（参加者のネットワーク構築等）を企画に含めて実施したい。
- 屋外イベントでのドローン操縦は天候によるリスクが大きいため、予め室内会場を確保するなどの事前準備が必要だった。
- 新しい取組のため否定的な意見もあったが、丁寧に説明し理解していただくことが地域の防災対策・啓発であることから、今後も粘り強く新しい切り口から事業を継続していきたい。

令和4年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	瀬戸内市民芸術祭実行委員会
事業名	市民の手元に届く芸術文化活動の情報発信で活動の活性化を
テーマ	市民の芸術文化活動の振興と新たな発信の構築
協働部署	中央公民館
補助金額	1,000,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	瀬戸内市における芸術文化の継承と発展に寄与するとともに、情操豊かな市民文化の振興、シビックプライド（郷土愛）の醸成に資することを目的とする「瀬戸内市民芸術祭」を円滑に運営、実施すること。		
活動・業務	文化芸術に関する企画や情報冊子の制作など。瀬戸内市の特徴ある歴史や伝統を生かした文化芸術活動を取り込んだ市民芸術祭の企画。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	10人

事業内容

第二回瀬戸内市民芸術祭の開催。瀬戸内市の文化芸術振興に関する講演会や様々なアーティストを招いて開会式典を行い、閉幕まで芸術公演など24イベントを実施した。また、芸術に関する市民の意識アンケートを実施・集計した。

事業の成果

- 第二回瀬戸内市民芸術祭／開催期間令和4年9月4日(日)～12月25日(日)113日間 24イベント 総動員数7653名
- 「市民のための市民芸術祭」という名のもとに新たな発表、発信の場を提供することで、市民への大きな刺激となり、自ら活動を再開、発表発信の実現となった。
- 総合プログラムを掲載したパンフレットの発行は、効果が高く、開際期間中、市内外の来場者の手元に届き、さまざまなイベントへの興味が湧き、再三会場に訪れる、新たな会場へも出向くという行動に現れたと捉えている。

事業を振り返って良かったこと

- 市民の文化芸術活動に関する意識をアンケート調査で考察することができた。これによると、市民は子ども向けの芸術体験型の企画を求めていること、総じて参加型ワークショップなどの活動を求めていることが分かった。また公民館の利便性や文化芸術に関するイベント情報の充実や取得の容易性も求めていることが分かった。
- 基調講演での提言により、瀬戸内市にとって、今のタイミングでの市民中心の芸術祭立ち上げの必要性を知ることができ、益々努力意欲を持つことができた。

改善点や今後取り組みたいこと

- 子どもが参加できるようなワークショップなどの企画を増やしていき、次世代の芸術文化活動への継承や創造性を育成できる事業を構築していく必要がある。
- 今回は音楽系の事業に比べ美術工芸的な展示が少なかった。
- 市・市民全体の傾向や必要性を見極めて、それに即した事業企画を考える実行委員の充実が必要。
- 地元の産業従事者や企業との連携を構築していきたい。

令和4年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	学校法人せとうち 日本ITビジネスカレッジ
事業名	邑久高生による私たちの瀬戸内市活性化プロジェクト
テーマ	県立邑久高等学校の魅力向上による 地方創生
協働部署	企画振興課
補助金額	994,800円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	IT人材を、外国人も含めて育成し労働市場へ供給することで日本経済の成長に貢献する。また、廃校活用による専門学校の立ち上げと運営、並びに地域活性化活動の中核として地方創生のモデルを構築する。		
活動・業務	国際ビジネス学科(ITコース)と介護福祉学科を擁する専門学校の運営。農泊事業等を通じた地方創生貢献活動。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	138人

事業内容

岡山県立邑久高等学校の魅力向上を目的として、高校生が地元の方の協力のもと、瀬戸内市の観光や地域産業について学習し、情報発信することで生徒の成長を図る事業。「観光コース」では地元の魅力を知ってもらうためのバスツアーを企画し実施した。「商業コース」では地元の専門業者からコーヒーの淹れ方を学んだり、地元の農産物を使用したタルトを開発・作成し文化祭等で販売を行った。

事業の成果

- バスツアーの参加者16名。瀬戸内市民と邑久高生の交流が活性化し、良好な関係が構築できた。邑久高生自身も新たな地元の魅力を発見した。
- 地元の食材備前黒皮かぼちゃとブルーベリーを使い、地元の方にご協力いただき開発作成した「かぼちぶタルト」は好評であった。
- 関わった市民の邑久高生に対するイメージアップと存在感の増大。様々な世代の卒業生や保護者からも高い評価をもらった。志願者増加の間接的な影響も考えられる。地域の方と学校の先生方

事業を振り返って良かったこと

- 邑久高校の生徒が成長し、事業を実施することで生徒自身も地域にも自信を持つことができた。
- 授業の出席率が上がり、積極的な取組姿勢(生徒が積極的に意見を出す、自分の役割に責任を持ち仲間と協力する、初対面の相手とコミュニケーションをとる等)が見られた。
- 地元の歴史も尊重しながら、将来を見据えて、生業に自信を持つ大人をゲストとし、その豊かな人間性や深い思想を紹介できた。

改善点や今後取り組みたいこと

- コロナ対応のため学校行事での飲食物提供が困難だった。
- 新コースのカリキュラムとのマッチングをより発展させるため、今後の方向性を検討する必要がある。
- 経験を蓄積しながら、情報ビジネスコースの専門性を生かすことで、瀬戸内市ならではのビジネス課題を設定しての課題研究も期待できる。その際、日本ITビジネスカレッジとの連携が強みになる。

令和4年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	山鳥毛里づくり応援団
事業名	国宝『山鳥毛』の魅力を活かした、まちづくりを目指して
テーマ	新しい旅行様式に対応した着地型観光の推進と歴史文化・地域資源の磨き上げ、魅力あふれる観光情報の発信
協働部署	文化観光課
補助金額	1,000,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	国宝「太刀 無銘一文字(山鳥毛)」が里帰りしたことを機に誇るべき郷土文化を未来に向けて継承する機運を高め、地域社会の持続的な発展につなげること。		
活動・業務	日本刀文化を守るための協働事業や、刀剣文化振興のための催事・イベントの企画運営への協力など。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	18人

事業内容

「山鳥毛」をはじめとする「刀剣王国備前長船」の文化をより深く多くの人に知ってもらうため様々な取組を行う事業。「ホームページやSNSによる情報発信」、「山鳥毛PRのためののぼり旗の設置」、「山鳥毛展示応援街歩きマップの配布」、「山鳥毛祭唄一文字盆踊りの作成」、「刀剣の里周辺の散歩道誘導看板の設置」、「山鳥毛にまつわる商品開発」、「応援団マスコットの制作設置」、「魅力ある刀工関係者の後継者育成～金工体験」などを実施した。

事業の成果

- 関係団体と連携して、備前長船刀剣美術館の特別展やテーマ展に合わせて展示の紹介動画を考案製作しYouTubeの動画公開を行った。
- 岡山刀剣フェスティバルでの刀工関係者(技術者)の後継者育成活動として行った金工体験では大変好評を得た。(参加者40名)
- 継続した情報提供(Twitter・Facebook・YouTube)により三鳥毛里づくり応援団の紹介をはじめとして、日本刀の聖地とした備前長船の魅力を発信でき、誇るべき郷土の刀剣文化の継承と地域社会の持続的な発展を考えながら、刀剣の愛好者や刀工関係者の方とのつながりができた。

事業を振り返って良かったこと

- 人数制限などにより来館できなかった方へのサービスとして動画配信を行い、刀剣を愛好する女性ファンなどに喜んでいただいた。
- 数多くの方々の支援を得て里帰りが出来た「山鳥毛」を所有する瀬戸内市で、日本刀の聖地、備前長船の名刀を誇りとするとともに、今まで継承されてきた日本刀文化を地域で守り、未来につなぐ責務を果たす目的で市と協働で事業展開できたことは良かった。

改善点や今後取り組みたいこと

- コロナ禍の影響で、刀剣博物館が休館となり、来館者数が大きく減少したことは残念だった。
- 刀工関係者(技術者)の後継者がいないのが現状であり、後継者の育成が必要である。
- 今後は事業を通して新たにできた刀剣愛好者・刀工関係者や刀剣団体・関係機関とのつながりを持って、日本刀の聖地「備前長船」の魅力を発信していきたい。

令和4年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	POLISH ART AND SCIENCE MISSION IN JAPAN
事業名	ズグラフフィート イン 瀬戸内市 オープン美術館
テーマ	県立邑久高等学校の魅力向上による地方創生
協働部署	企画振興課
補助金額	1,000,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	展示会、講演会、コンサートなどのかたちで日本とポーランドで芸術的、科学的、教育的イベントを開催することにより、両国の文化を近づけること。		
活動・業務	ポーランドと日本の文化交流並びに両国の国交樹立100周年を祝ってのイベント開催。音楽・アートを通じての地域貢献活動。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	8人

事業内容

岡山県立邑久高等学校の生徒とともに、同高校の体育館の外壁にヨーロッパの伝統技法「ズグラフフィート」を用いて、竹久夢二の作品と瀬戸内海の四季をイメージした壁画作品を制作する事業。「ズグラフフィート」の歴史と技法をワークショップ等で学び実践した。

事業の成果

- 「春」と「夏」をテーマとした芸術的価値の高い2つの壁画を完成させることができた。
- プロジェクトに参加した生徒は、デザインのプロセスを学び、瀬戸内市の風土・歴史に触れ、アート、デザイン、行政、ジャーナリスト、建設業、左官、石灰製造業、プロジェクトに関心を持つ地域住民などの専門家と交流する機会を持つことができた。
- 生徒は自分たちの努力が自分たちの住む故郷に影響を及ぼしているという実感と、壁画が学校のシンボルとして未永く残ることにより、生徒の心にシビック・プライドが生まれてきた。

事業を振り返って良かったこと

- 邑久高校の生徒の美術や絵画、そして瀬戸内市の文化・風土への関心が高まった。
- テレビ局、新聞等の報道機関やソーシャルメディア等に大きく取り上げられ関心を集めた。また、市立美術館では、壁面の短編ドキュメンタリー映画と壁画の大判写真の展覧会が開催され、約8,000人が訪れた。さらに、ポーランドの美術史月刊誌「Sztuka i Krytyka」にも記事が掲載されるなど多くの反響があった。

改善点や今後取り組みたいこと

- プロジェクト終了後、地元の人々がズグラフフィートの技法に興味を持ち、もっと壁画を描いて欲しいと要望が出てきた。
- 地域の人が作品を見たくても高校内に立ち入れないので残念だという声があった。
- 次年度もこの補助金に採択されれば、体育館の残りの壁面に「秋」と「冬」をテーマとした作品を制作したい。

令和4年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	せとうちスマイルプランニング
事業名	眠っている空き家等を掘り起こし活用できる資産の流通促進
テーマ	空き家等を活用した定住推進や魅力あるまちなみの形成
協働部署	企画振興課
補助金額	1,000,000円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	瀬戸内市の人口減少への歯止めをかけるべく、移住定住希望者への魅力発信		
活動・業務	瀬戸内市の人口増加に向けての各種活動。移住定住希望者に短期間の住宅無償提供や県外・市外の方向けの瀬戸内市魅力発見ツアーの企画・運営等の実施。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	6人

事業内容

空き家バンクへの登録促進に向けて、瀬戸内市内にて「空き家及び空き地等の活用セミナー」「専門家による無料相談会」を実施。また、空き家相談に関するQ&Aをまとめた冊子の作成を行った。

事業の成果

- 「空き家及び空き地等の活用セミナー」および「専門家による無料セミナー」を2回開催した。令和4年10月23日 ゆめトピア長船 参加者14名 令和5年1月22日 ゆめトピア長船 参加者12名の計26名の参加者があった。
- 空き家相談に関するQ&Aをまとめ、活用ができるよう冊子にまとめた。
- セミナーや相談会を通して、空き家バンクの紹介・登録を促し、5軒程度紹介できる状態となった。内1軒が商品化できている状態となった。

事業を振り返って良かったこと

- 空き家等を放置するデメリットと活用することのメリットを考える場ができた。
- セミナーの参加者から問い合わせが多く、問題意識を広めることができた。

改善点や今後取り組みたいこと

- 空き家等の所有者は、まずどうしたら良いのかという一歩目が分からずにいる方が多かった。
- 空き家等の増加で人口減少に拍車がかかる懸念がある。市民の方に意識を持ってもらう為にも同じような取組が必要だと考える。

令和4年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	一般社団法人ひばりエンタテインメント
事業名	さざなみラジオと温室農園
テーマ	思いやりがあふれる人権尊重のまちづくり
協働部署	市民課人権啓発室 (現ダイバーシティ推進室)
補助金額	1,000,000円

団体概要(公募申請時点)

団体の目的	アートや表現を通じて社会の雑多で多様な感覚を知るきっかけを長島から作る。		
活動・業務	喫茶さざなみハウスの運営、それを拠点に長島の歴史文化を紐解き、紡ぎ直し、幅広い層へ発信、繋いでいく活動。		
主な活動地域	瀬戸内市(長島)	構成員数	8人

事業内容

長島で暮らす人たちと、それ以外で暮らす私たちを繋ぐツールとして「さざなみラジオ」「温室農園」を実施。「さざなみラジオ」ではポッドキャスト・anchor・spotifyを使ってさざなみハウス『何か不足』を配信。10本を収録し、入所者やさざなみハウスになじみのある人たちから話を聞いたり、機関紙「愛生」や編集部に残る文芸作品から詩を一遍朗読して紹介を行った。

「温室農園」では入居者とともに年12回の土づくりの講習を受け温室農園の準備や農作業、コンポストの設置準備等を実施した。

事業の成果

- ハンセン病や長島に出会い、理解しようとしているひとりひとりのエピソードの集積こそがアーカイブとして大きな意義となった。
- 当事者の生き立ちを求めるのではなく、その葛藤している姿を私たちが知り、自分に当てはめて自分で考えることができるきっかけをつくることができた。
- 療養所への多様な関わり方のひとつを提供することができた。

事業を振り返って良かったこと

- 長島の療養所の当事者と関わる時間は現在しかない中で、アーカイブを残すことと、長島へ外部の人が関わるができるよりしろを作り出していけることは、実施の大きな意義となっている。そのふたつは今後、長島で、人権を学ぶだけでなく、自分たちの生活、暮らし、政治、ダイバーシティを考えるための材料として未来の可能性を広げている。市民にとっても大きな学びの場となる。

改善点や今後取り組みたいこと

- 長島が偏見差別を学ぶだけの島ではなく、現在の私たちの暮らしに地続きであると実感したり、気づいてもらうことが必要である。
- 活動拠点のさざなみハウスでは、既に健常な人から障害のある人、老若男女など多様な人が集まるようになっていく。物理的にバリアフリーを完備しているわけではないが、心理的にはバリアフリーである。そういった人たちが常連としての関係人口となっていく、また場所の空気をつくっていく。協働提案事業も同様に継続しながら、長島がより瀬戸内市の未来にとって必要な場所となるよう実施していきたい。

令和4年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	ushimado.labo
事業名	しおまち唐琴通りの歴史的建造物の 住み継ぎケーススタディ
テーマ	空き家等を活用した定住推進や魅力ある まちなみの形成
協働部署	企画振興課
補助金額	883,900円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	牛窓地区を生活の場とする人たちが、安全で、安心して生活し、豊かな人間関係を通して、自己実現できる「まち」にすると共に、さらに多くの人々が訪れ、生活の場としたくなる「まちづくり」に資すること。		
活動・業務	牛窓の住まいと暮らし、歴史・文化の調査・研究 研究会、勉強会、見学会、展示等のイベントの開催 地区住民、地区来訪者への情報提供など		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	5人

事業内容

「住み継ぎ」の実態把握と課題整理を行う事業。地域居住者、移住者、就業者、空き家所有者にインタビューを実施。また、空き家実測調査も行い課題をまとめ、その調査を基に活動報告を行い、報告書冊子を製作した。また、建築・都市の歴史の専門家を招いて港町・牛窓の特質についての講演会も実施した。

事業の成果

- インタビュー調査を15人に実施、空き家実測調査より3件の実測と5件の図面化を行った。
- 調査・事業の報告をA5版冊子(20ページ)にまとめ500部製作した。
- 「住み継ぎ」というキーワードを元に、牛窓に暮らす、営みをする多様な業種の方々、地域で長く暮らしているの方々、現在は遠方にいるが牛窓に愛着を持っている空き家の所有者の方々などから、牛窓に対する思いや現状などを聞くことができ、実態を把握することができた。

事業を振り返って良かったこと

- インタビュー調査、実測調査、ヒヤリング調査、講演会や意見交換会、報告会などの機会を通して、地域に対する思いや考えを伝えることができた。それにより、課題を共有することができた。

改善点や今後取り組みたいこと

- 調査して初めてわかる課題の取りまとめには、専門知識や経験値が必要なため、申請者としてボランティアで関わる枠組みであると、長期的な継続は難しい。
- 来年度も引き続きインタビュー調査を行い、書面や報告会を通じて、フィードバックすることで相互理解が拡がり、地域に必要な仕組みやあり方などが表れてくると考えている。
- 来年度は、若い世代にも波及するような空き家活用のワークショップなどを行い、より具体的な課題解決を探っていくとともに、大きな視点でも捉えるために、土地の利用調査や他地域の事例などと比較し、必要な仕組みや地域にとって理想の「住み継ぎ」の在り方を検討していきたい。

令和4年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	一般社団法人 せとうち保護犬猫の里
事業名	せとうち犬猫支部
テーマ	環境・動物にやさしく、住みやすいまちづくり
協働部署	生活環境課
補助金額	527,100円

団体概要（公募申請時点）

団体の目的	殺処分や虐待など、理不尽な扱いを受ける犬猫をなくし、動物福祉の向上を図る。		
活動・業務	犬猫の保護及び譲渡、譲渡会の開催。 せとうちドッグパークの運営。		
主な活動地域	岡山県	構成員数	11人

事業内容

地域の野良猫問題を解決するため、モデル地区を設定して地域猫活動に取り組むとともに、市内において講演会を開催するなど当該活動の周知啓発を行う事業。市内各地区で飼い主のいない猫の不妊去勢手術費補助金の利用促進活動や野良猫の相談対応（現場確認、引き取り、地域猫の説明）を行う。

事業の成果

- 個人の方から「手術したい」と問い合わせがくるようになり、まだ少ないが周知し始めた実感があった。また、当法人で不妊去勢手術が受けられるようにした（月1回は実施）。
- 地域猫活動を検討している自治会が2つあり、登録へ向けて書類作成と地区内説明や承諾の段階で今期が終了した。来期早々には、地域猫活動開始する予定である。
- 多数の猫の引き取りやTNRを実施した。
- 講演会を実施し22人が参加した。
- これまでボランティアが集まる機会がなかったが、市内の個人活動者を集めたグループLINEを作成した。

事業を振り返って良かったこと

- 地域猫活動をしたいと考えている方が例年より多く、餌やりやトイレ設置などスムーズに行えている。
- 市の不妊去勢手術費補助金の申請を行った人に、当法人が開催する手術について生活環境課からアナウンスしてもらい、不妊手術の頭数を伸ばすことが出来た。

改善点や今後取り組みたいこと

- 捕獲器の確保とボランティアが不足している。
- 不妊去勢手術が定期的（月2回）に提供できるように、獣医師の確保に努めていく。
- 野良猫に少しでも関心を向けて貰えるよう、周知していく。また、活動を支えてくれるボランティア育成にも取り組みたい。